

# 建築士豊田さん 市民参加型で再建

# 被災古民家 交流拠点に

## いわき・中之作

いわき市中之作地区で、東日本大震災の津波被害を受けた古民家が交流拠点に生まれ変わった。解体予定だった建物と土地を、市内の建築士豊田善幸さん(44)が購入。市内外から参加者を集め、ワークショップ形式で少しずつ修理を重ねた。「清旅館」と名付けられた建物は、地域に新たな魅力を生み出している。

古民家は中之作漁港の目の前にあり、築200年以上といわれる。木造の階延べ床面積約220平方メートル。津波で1階部分が大きな被害を受けた。

豊田さんは2011年1月、所有者から修理の相談を受けた。「腕の立つ職人が良い材料を使い、技術を見せびらかすように構造をむき出しにして造っている。構造的に魅せられた」と豊田さん。

震災後の11年7月、解体される予定だと知り、「港町の風情を伝える貴重な建物を残したい」と、任意団体「中之作プロジェクト」(現在はNPO法人)を設立。所有者に掛け合い、同年11月に建物などを譲り受けた。

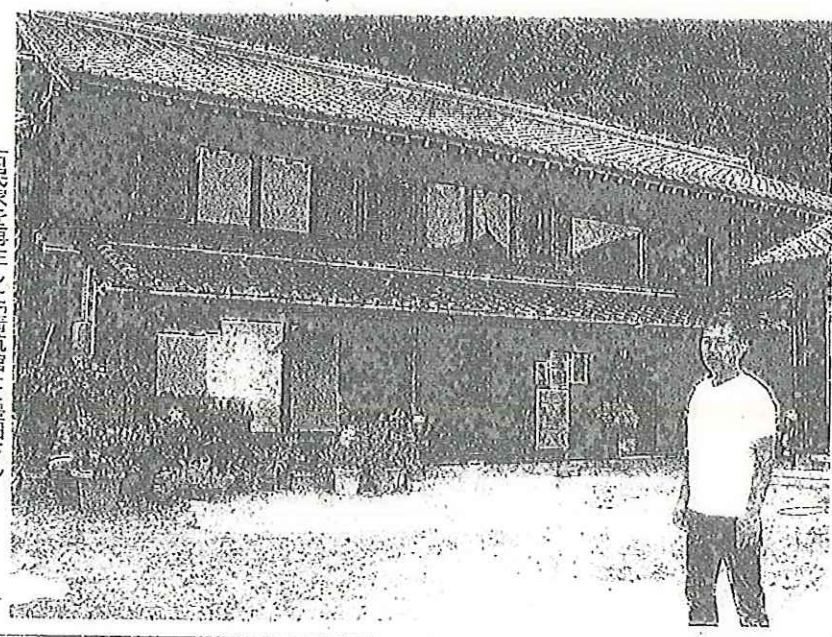
企業の復興支援助成を受け、プロに大工仕事を頼むとともに、市民が修理に携わる「直してみんかプロジェクト」を展開。口コミなどで集まった若者や家族連れら延べ800人が、「土塵塗」「障子張り」「床塗装」など10回以上のワークショップに参加し、今春にはほぼ修理を終えた。豊田さんは「修理に関われば、参加者に小さな所有者意識が生

## 写真教室、陶芸講座など開催

まれる。愛着を持ってくれることは「地域の貴重な資源として」と、活動が広がる「考えた」と言っ。

「清旅館はことし4月下旬に本格オープンした。落語会やミニコンサート、写真教室、陶芸講座などを開いているほか、イベントなどにも貸し出している。

市内鹿島地区から自宅と設計事務所を清旅館の敷地内に移し、家族と移り住んだ豊田さん迎える。地元も協力し、一緒にまちづくりを盛り上げていきたい」と歓迎する。



古民家を再生した清旅館と豊田さん